

視察（研修）報告書

令和4年10月22日

府中市議会議長 様

会 派 名 公明党

議 員 名 大本 千香子

加島 広宣

日 時	令和4年10月18日
視察（研修）先	東京都 衆議院会館
視察（研修）項目	食料自給率の農業政策・子どものスマホ使用と影響について
参 加 者	大本 千香子・加島 広宣・創生会
視察（研修）内容	・食料自給率の農業政策について ・子どものスマホ使用と影響についての研修会
所 感	<ul style="list-style-type: none">・衆参議院会館に向かい地元選出の国会議員に陳情書を提出し、府中市の抱える課題解決のために、要望をおこないました。・食料自給率向上対策についての研修をおこないました。・6次産業としてのブランド展開と地域起こし協力隊を活用した取り組みなど、輸出も含め専門的なコーディネーターが必要と感じました。・ICTやIoT、データの利活用を行い、農業のノウハウを継承していくことの必要を感じました。・付加価値やアイデアで儲かる農業にして、魅力ある産業にしなければならない。・子どものスマホ使用と影響について伺う。・低学年への使用が増えてきている。家庭でのルールを決めて使用をするようにしなければならない。・ネット利用での知らないうちに犯罪に巻き込まれたりする危険性もあるため、ネット利用に潜むリスクを正しく知ることや使い方の教育も必要と感じました。・また、子どもたちの健康への被害も懸念されるため、正しく理解し、使用することへのさまざまなリスクを伝える必要があることも感じた。

視察（研修）報告書

令和4年10月22日

府中市議会議長 様

会 派 名 公明党

議 員 名 大本 千香子

加島 広宣

日 時	令和4年10月19日
視察（研修）先	長野県 ホクト文化ホール
視察（研修）項目	デジタルが開く地方議会の未来について
参 加 者	大本 千香子・加島 広宣・創生会
視察（研修）内容	・第17回全国市議会議長会フォーラム 第1部講演 「コロナ後の地域経済」 富山和彦 第2部パネルディスカッション 「地方議会のデジタル化の現状・課題と将来の可能性」
所 感	・第1部講演の「コロナ後の地域経済」では、日本経済の向上には地方経済対策が重要であると感じました。 都会への一極集中は、通勤に2～4時間かけて出社して、さらに高い残業代の支給となり、コスト高の原因となっているなど、衝撃的な内容の話があり、今後の日本経済の向上には課題であると感じさせられました。 ・ローカル経済圏での企業連携をするなどの取り組みを伺いました。これからの考え方として取り組まなければならないと感じました。 ・未曾有かつ恒久的な人手不足とDXの時代にあって個別企業に依存するセーフティーネットはマイナス面が拡大するため、包括的、公平なセーフティーネットを整備し企業の新陳代謝が必要であるともあった。 ・第2部のパネルディスカッションでは、「地方議会のデジタル化の現状・課題と将来の可能性」を伺いました。 ・平時・災害時・コロナ禍に関わらず、議会機能を十分に発揮でき、住民とのコミュニケーションを確保するためのオンライン化は重要である。議事手続きのオンライン化や住民手続きのオンライン化などの整備していくことの課題も見つかりました。 ・オンラインによる視察や議会報告会など自治体DXを推進していかなければならない。

視察（研修）報告書

令和4年10月22日

府中市議会議長 様

会 派 名 公明党

議 員 名 加島 広宣

日 時	令和4年10月20日
視察（研修）先	東京都 練馬区役所
視察（研修）項目	ひとり親支援プロジェクトについて
参 加 者	加島 広宣・創生会
視察（研修）内容	・ひとり親支援プロジェクトについての研修会
所 感	<ul style="list-style-type: none">・単にひとり親の支援ではなく、ひとり親の家庭が自立できるよう個別のニーズ調査がおこなわれていて、総合的な支援となるよう自立応援プロジェクトがされていた。・「生活」「就労」「子育て」の3つの支援策を総合的に提供できるよう「ひとり親家庭ニーズ調査」に基づかれ、充実を図られていた。・「ひとり親家庭のしおり」を隔年ごと（2年に1回）作成していて、しおりでは、身近な相談窓口や、ひとり親家庭、寡婦・寡夫の方々にご利用のできる各種制度などを紹介されていた。・わかりやすく直近の制度やサービスを掲載されていて。手元においてお役立ていただけるようなつくりとなっていた。・「ひとり親家庭のしおり」（ひとり親サポートブック）は、視覚障害のある方などにも対応できるよう Uni-Voice アプリを使用して、音声で記事の内容を聞くことができるようになっていた。・「ひとり親サポートブック」には、お子さまの年齢に応じて利用できる制度が一目でわかる早見表も掲載されていた。・相談が多いのか、離婚後の手続きは、ご家庭の状況によって異なるため、手続きに必要な書類などが掲載されていた。・ひとり親の自立に向けた支援をおこなうために一人一人の悩みや相談を受けて、寄り添ってあげられていると感じました。・本市ではどのような状況なのか確認し、提言していきたい。

視察（研修）報告書

令和4年10月22日

府中市議会議長 様

会 派 名 公明党

議 員 名 大本 千香子

日 時	令和4年10月20日
視察（研修）先	千葉県市原市
視察（研修）項目	交通空白地対策について
参 加 者	大本千香子・創生会5名
視察（研修）内容	・交通空白地対策における公共交通の導入経過について ・地域主導の運営をするための人材確保の取り組みなどの研修会
所 感	<ul style="list-style-type: none">・佐倉市は人口17万人規模。人口ピークを過ぎ減少に転化した。地域は3つの公共交通空白地域と、中心市街地を持つ複合的な構造で、空白地域の高齢化に伴う交通手段の確保が急がれている。公共交通を含め様々な手段で移動の確保を目指し、市民、行政、交通事業者が一体となり推進されている。・路線の詳細な利用状況の調査を繰り返されて、今のニーズ5年先のニーズ、10年先のニーズと時系列での検討がなされている。・中心市街地では、より公共交通を利用したくなる施策も展開。停留所の改善、待合所の快適化、時刻表等の連携、バリアフリー化、駐輪所と公共交通機関の駅等の見直しなども進められた。・街づくりを根幹に、住む人の生活にあったプランニングを図られている。・福祉分野との連携により、移動が難しい方の外出支援も組み込みながら、住み慣れた地域でなるべく長く暮らしていける方向を目指されている。・利用者アンケートでも、連携のスムーズさや公共交通以外の移動手段の提示などきめ細やかな施策が大きく評価されている。・府中市の特性に合わせて、公共交通に偏らないさらに生活者のニーズに合った移動手段を発送の転換をしながら確保することの重要性を感じた。